

ボランティアグループ「かみふうせん」(志布志市)

発表者：本 村 多可子 氏

志布志町から参りました。ボランティアグループ「かみふうせん」と申します。

私たちは、子どもたちに1人でも多く、たくさんの本を読んでほしいという切なる願いのもとに平成9年に結成いたしました。

私たちの活動は、子どもたちに本を読んであげたり、お話をしてあげたりして楽しい時間を共有することです。土曜日の午後、図書館とか、あるいは図書館行事のいろんなイベントへの参加とか、ブックスタートへの参加、「かみふうせんまつり」という独自のもの、そのほか要請によりまして、小学校、保育園、幼稚園などへも「お話し会」に出かけております。老人クラブへも月1回訪問して「お話し会」を開いております。

「お話し会」をより楽しくするための人形劇の人形とか、パネルシアター、エプロンシアター、その他いろいろなお話し会に使う道具もすべて手づくりでオリジナル作品、私たち「かみふうせん」だけのものだと、世界に1つしかない人形劇の人形だと自負しております。

読書は、子どもの心を育てるとっても大切な栄養素の1つだと言われています。私たちはその大切な栄養素を子どもたちにどう手渡していくか。図書館の「お話の部屋」で待っています。子どもたちがいきいきとやってきて、「お話し会」を終わり、「ああ、おもしろかった。楽しかった。」と言って満ち足りた顔で帰っていくとき、私たちが子どもたちに元気をもたらしています。私たちの一番幸せな時間でもあります。

子どもの心の中には、ポケットがあるとされています。そのポケットの中に私た



ちは何を入れてあげるか。それは感動を入れてあげたいと思います。一冊の本を読んで、「ああ、おもしろかった。楽しかった。ああ、怖かったねえ。」と、時には悲しい話もありますが、そういう1つ1つの感動を心の中に積み重ねて、心のポケットを大きく膨らませてあげたい。そして、心の中に感動のふるさをつくってあげたい。それが私たちの願いです。

やがて子どもたちは中学生になり、高校生になり、就職したり、大学生になったりして、外へ出ていったりします。そんなとき、心の中のポケットにふっと手を差し込んで何か触れるものがあつたとしたら、それは私たちの一番喜びとするところです。そんな心のふるさとづくり、それが私たちの活動です。

今年の夏休みに、帰省した大学生の青年に会いました。その青年が私に言いました。「おばちゃん、まだ読み聞かせをしているんですか。」、そして「僕、就職が決まったんですよ。」と教えてくれました。十何年前に「かみふうせん」に来ていた常連君でした。私はその子どもの心のふるさに触れたようで、とっても嬉しく思いました。これが私たちの活動です。

次に、私たちの活動の中から、実演としまして、ペープサートというのをご紹介します。舞台が出てまいりますので、ご注目ください。

ペープサートといいますのは、紙でつくった人形がいろいろ動き回る、あまり皆様にはなじみでないものかもしれません。

ペープサート「バナナ」という演目です。どうぞご注目ください。



ペープサート「バナナ」実演

バナナが1本ありました 青い南の空の下 子どもが2人で奪い合い

「僕のバナナだ」「僕のだよー」「バナナー 待て待て」「バナナ 待てー」

バナナン バナナン バナナ

ワニが踊っておりますと バナナが1本飛んできて あんまり高くて届かない

「バナナ こっちに来ておくれー」「バナナは僕のバナナだよー」

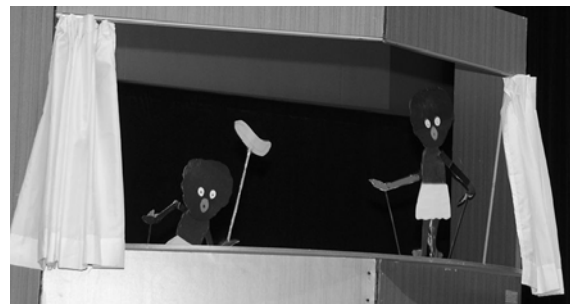
バナナン バナナン バナナ
バナナはどこへ行ったんだ 僕のところに
来ておくれ

バナナはどこかに行っちゃった
「何だかさみしくなっちゃったよ」「バナナ
はどこへ行ったんだ」



バナナン バナナン バナナ
バナナはどこへ行ったんだ ワニが1人で
怒り出す

「バナナは僕のものなんだ」
「いやいや 私のものなのよ 私が見つけ
たバナナでさー」



バナナン バナナン バナナ
ワニと子どもが奪い合い

「私のバナナよ 取らないで」「僕のバナナだ 待ってくれ」
「何を争っているんだねえ バナナいただき ありがとう サンキュー」

バナナン バナナン バナナ